

### 第3回 多文化共生のまち福島推進検討委員会 議事録

議長

それでは議事に移りたいと思います。次第に沿って議事を進めてまいります。

事務局より次第（１）「第２回多文化共生のまち福島推進検討委員会の振り返り等について」の説明をお願いします。

事務局

資料説明 … 「第２回検討委員会の振り返り」／「その他のご意見について」

議長

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対してご質問ご意見等ございましたら挙手を願います。いかがでしょうか。

その他に、委員の皆さまから補足するような情報等ございましたらお願いいたします。

では、特にご意見ご質問がないようですので、事務局より、次第の（２）に移りまして、「在留外国人アンケート調査結果について」の説明をお願いいたします。

事務局

資料説明 … 「福島県外国人住民アンケート調査」

議長

ありがとうございました。では、ただ今の事務局の説明に対して、ご質問ご意見などございましたら挙手をお願いします。

事務局

福島市にお住まいと回答した方は93人でした。

今回、全県のこのデータを基にして、いろんな指針を考えていきたいというふうに考えております。細かく見ていきますと、実は回答者の属性と福島市にお住まいの外国人の方の属性があまり変わらない、というのが分かりました。たとえば国籍の分布ですとか、在留資格の割合、それから性別、年齢、こういったところを細かく福島市のものと照らし合わせてみたところ、数字は少し異なりますが、分布状況としては同じでございましたので、

この全県データをもって指針の方、検討していきたいというふうに考えております。

議長

ありがとうございました。では他にご意見ご質問ございますか。

委員

18 ページの 16 の問題の中で、多言語アプリ等を日常生活でよく利用するかどうか聞いています。今、職場で多言語アプリを使っています。最近、音声翻訳機の通訳デバイスを検証していて、多言語アプリよりも使いやすいと感じています。

議長

いわゆるスマートフォンのアプリケーションよりも、専用のデバイスの方がより使いやすく、便利なものもあるということですね。ありがとうございました。

事務局

アンケートの 18 ページに、多言語アプリの利用があまり多くないとあって、「あれっ」と思われた方もいるかと思えます。よく設問を読んでみますと、「日常生活で」という表現になっています併せて 26 ページご覧いただいて、「災害が起きた時にどういう情報の取り方をしていますか」というところかというと、実は **Safety tips** 等に代表されるような、多言語アプリでも情報収集するという結果がでています。もしかすると外国の方が、観光庁等の指示もあろうかと思えますが、日常生活で得る情報の収集の仕方と、災害の時はこういうアプリを使いましょうということで、使い分けしているところがあるのかなと思ったところでは。

議長

ありがとうございました。その他、ご意見ご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

では、他にご意見ご質問等ないようですので、事務局より次第（3）「多文化共生のまち福島推進指針（案）について」ご説明をお願いいたします。

事務局

資料説明 … 「多文化共生のまち福島推進指針（案）について」

#### 議長

ありがとうございました。大部にわたる資料ですので、少し時間をかけて質疑応答に移りたいと思います。ご意見ご質問ある方、挙手をお願いします。

#### 委員

説明資料。アンケート結果で外国人の方が不安に思っていることの1つに「原発事故と放射能」とあがっていることから、安心安全な福島をもう少しアピールできたらいいのかなと思います。たとえばお米は全袋検査しているとか、食べ物は皆さん買っても大丈夫ですよというように、福島が安全であるというところを発信する項目があってもいいのかなというように思います。残念ながら、SNS で福島と検索すると、どうしても原発の爆発のところが一番初めに出てきてしまうので、そうではなくて、美しい自然があって、くだものも美味しくて、みんな普通に暮らしてるんですよということを、外国の人たちの中にはまだまだ知らない方がたくさんいます。留学生たちも、福島に子どもを派遣したりするときも、福島は大丈夫なのかと気にします。原発から 9 年経ちますが、そういう方が世界中にはたくさんいて、国内の西日本であっても、大丈夫なのかと気にしている方はある。長い年月が経ち、福島にいても大丈夫であることは理解しているけれど、不安感を取り除くような項目が、ガイドブックでもいいんですけど、一つでも何かあればいいのかなあと思っています。福島は今こんなことしてますよ。みんな安心して食事もできる、マスクもしてないで歩いていますよという。そういう、ちょっと基本的な事なんですけど。やっぱり外国人の人たちは原発で防護服を着てるという姿を、まだ福島ではそういうふうに住んでるんじゃないかと思っている人のほうが多いと思っているので、そうではないというのをどこかに発信するという姿勢が福島市の中にあってもいいのかなと思います。

#### 議長

他にご質問ご意見などございますでしょうか。

#### 委員

実際に住民に配って説明したりする時に使うのは、このアクションガイドだと思えばいいわけですね。裏の 10 ページの図のあるところは、別ですか。

#### 事務局

こちらも一緒です。

## 委員

施策目標 1 から 6 まであって、それぞれに対応する形でアクション 1 から 6 まで、対応しているわけですね。そうすると、このアクションガイドの中のアクション 5 について、ぱっと読んでもよくわかりません。施策目標のほうをみると、腑に落ちるような中味になってはいます。ようするにこの部分は、行政としてちゃんとニーズを把握して、受け入れ態勢を満たしていくという、行政側の課題という内容だと思うんです。それがそのアクション 5 になってくると、絶えず確認して発展させます、データをとってニーズを把握しましょうって言うけれども、市民はこういうふうにいわれてもよくわかりません。無理に番号を対照させずに、アクションガイドは 5 と 6 は一緒にして、5 つに整理した方が分かりやすと私は思いました。

このアクションガイド、もうちょっと検討の余地があると思います。例えば、アクション 6 は、1 番下のケースの 1 で、「体制を強化しましょう」とある。これ、市民は何のことかわかりません。いろんな組織があって、ネットワーク作るとか、そういうことだと思うんですけど。これはなかなか伝わらないと思います。

それから、アクションガイドの 1 番上の前文のところ、「それぞれが自立しながら協力しあって生活すること」だと書いてあります。自立しながらという言葉にどういうニュアンスがあるのか。そこをちょっと教えて欲しいです。

## 事務局

寄り添う姿勢だけではなく、外国の方が活躍していただくことが、目標なのではと考えました。それで、「自立」という言葉を、アクションガイドの前文にいれました。この表現の仕方ももう少し検討していきたいと思います。

## 委員

今の意見に関連して述べたいと思います。「自立」についてですが、外国人は弱者ではないので、「自分でやりたい」という気持ちが強いです。そういうニーズを把握するところでも、在住外国の方を活用できるような姿勢であると、より「自立」につながり、より良いまちにつながると思います。

たとえば、こういう委員会の委員になってもらうとか、様々な委員会とか、まちづくりについて協議するところで、外国人の受入対応を考えるだけではなく、実際在住している外国の方を呼んで、そういう場でニーズを把握するということがあっていいと思う。自分の力で自分の事を変えていけるような場を作るという意味があれば、よりよい指針になるかなと思いました。

#### 委員

日本人に頼らず、行政にも頼らずに自分でちゃんとやっていけるという意味の「自立」を外国人に求めるのはかなり酷だと思います。それよりも、いろんなサービスとか、組織とか、仕組みをつくっているから、これを活用できる人になってくださいという意味で使えば、理解される言葉なのかなと思います。外国で暮らしてるから、いろいろ助けてもらって、協力しあっていかないと、子育てしながら生活するのは難しいと思います。

#### 議長

ありがとうございます。いろんな文言のところ、少し難しいところがあるのと、キャッチコピーというか、核になっている「市民一人ひとりがお互いに認め合う、多様性を尊重したまち」っていうのが、そもそもいいのかどうかというご意見を言っていただければいいかなと思います。前回の会議で出た、核になる何かコピーをとという話しにつながるんだと思います。

#### 委員

「1人ひとりがお互いに認め合う、多様性を尊重したまち」、いいんじゃないかと思いました。短い言葉ですし、分かりやすくいいかと思います。

あと、10 ページの丸の図ですが、外国の方々のグループもこの図に入るとすればけっこう大きな部分を占めると思います。外国の方のこともこの図に入れてもらおうといいかなと思いました。

#### 委員

福島市において、たとえば、ベトナムから来た方たちでつくったサークルとか、そういったコミュニティというのは、あるんでしょうか

#### 事務局

ベトナムですと、ふくしま・ベトナム友好協会という組織があったり、フィリピンとかインドネシアそれぞれに、団体というか交流サークルのような組織はあります。

#### 委員

今、企業にベトナムの方から何人か、来てると思いますがそういった方々には、自分の国の団体や交流サークルといったものがあることを、市役所では、紹介しているのでしょうか。

#### 事務局

今の段階で言いますと、もしそういうお問合せがあればご紹介していますがただ、委員がおっしゃるように、これからそういうつなぎのところを、行政の方でしっかりやっていないといけないのかなと考えています。今後は、我々方で様々な団体の情報をいただいて、皆さんにご紹介するようなものを、考えているところです。

#### 委員

各企業が外国の方を雇用する際に、そういうサークルの存在を知っているといいのではと思いました。企業が分からなければ市役所に聞いてコミュニケーションとられたらいかがですかという、そういうつなぎもできるのかなと思います。もしそういったコミュニティ、各国のコミュニティみたいなものがあるのであれば、委員の皆さんや関係者にお知らせしていただければなと思いますから。よろしくお願ひしたいと思います。

#### 事務局

来年度にこの多文化共生の検討委員会を改編しまして、ネットワーク会議のような形にしたいと、考えています。市の国際化の状況がちゃんと今まで伝えられていなかったところを踏まえて、そういった団体の情報を団体の方にご了解いただいて、関係者にお示しできるように、情報を整えていく必要があると思いますので、来年度の取組みの中で検討していきたいというふうに考えております。

#### 委員

団体とかは紹介しやすいのですが、少人数の国籍。たとえば3人とかしかいない場合は、市の方にも団体の方にも注意をお願ひしたいと思っています。そもそも目立つ方の個人情報ちょっと漏れてしまう可能性が高くなると、心配になる方もいると思います。特に人数が少ない国籍の方のことは、紹介しにくいという事があります。その場合は県の協会とか、たとえば、ハワイの人の場合は、県の方に紹介していただいた方がより優しいと思います。プライバシーだけは、大事にする考えもあるので、そういうところだけはよろしく

お願いします。

#### 議長

ありがとうございます。この、今出ている図の所と、それからコピーに関する所、これまでご意見うかがっていて、一つはこの図自体が真ん中に外国人を置いているということなので、やっぱり、この外国人を中心に、ここに一種、課題のようなものを感じています。そこに他の人達が、どういうふうに関わっていくかという図の書き方になっているので、どうしても、さっきの言葉でいえば、弱者とかマイノリティとかマジョリティとか、サポートする側の人たちがこの中心にやっぱりいるんだっていう感じです。どうも対等な多様性をイメージさせない図になってるんですね。対等であって、互いに承認した多様性というのであれば、もっとフラットに書かなければいけない感じになるのですが。この中心に、ここに外国人を置くという図になっているというのが、少し気になります。先ほどの言葉だと、「自立」みたいなことも考えてらっしゃるのであれば、それをむしろこのキャッチコピーの中に入れてもいいのかなと思います。たとえば「市民一人ひとりが自立して互いに認め合う」みたいなものを入れてもいいのかなと。このコピー自体に全然異論はないのですが、異論がない分特色もないということになるので、もし福島市がここをどうしても押したい、「自立」とか、そういうところをもし表に出したいというのであれば、コピーに出してもいいのかなというふうな感じを持ちました。この見せ方と、それからコピーでどういうふうなところを強調するか、アクセントを置くかというのは少し考えてもいいかなと感じました。

#### 委員

多文化が共生するということは、日常に、普通に外国人が参加しているということだと思います。イベントを開催してそれに来ていただくとか、講座に来ていただくっていうのはもちろん大事で、それをやり続けていくことも大事。子どもが行くような、こむこむ館とかそういうところに行った時に、普通に外国人の親子が来て一緒に遊んでるとか。そういうふうに日常にとけあうことが多文化なのだと思います。もちろんおっしゃっているように外国人の方は弱者ではなく、日本人同士もサポートするように、相手が外国人であってもサポートし合うような、そういう関係性が「自立」ということなのかなと思います。その、日常に招き入れるための広報みたいなことが大事なのかなと思っていて、前回の会議で、いろんなアプリを充実させるとか、そういう事も大事だけれども、意思疎通をすることの努力の積み重ねが大事なんじゃないかというお話があって、それが私すごく腑に落ちました。困っている時に声を掛けるっていうのもそうですし、特別なことじゃなくて、普通にいるっていうふうになれたらいいなと思います。そのためにできることを示すこと

ができたらいいかなと思いました。

#### 議長

日本語という点ではハンディキャップがあるかもしれないが、マルチリンガルという点では、むしろポジティブなものを持っていると思います。その積極的な面というのは当然、外国出身者の人はあるし、異文化間能力みたいなものも非常に高いと思います。そういうところは活用できたり、使ってどんどん活躍できるんだってというようなポジティブなメッセージもたくさんあると思います。

普通に、できる事、得意な分野、不得意な分野があって、お互いがそれぞれの良い所を出し合っている、というのが見せられるといいかなと。普通の日本人の人たちがお互いに、良い所と弱い所を補いあったりできてるように、ということなんでしょうと思います。

ありがとうございました。 他にご意見いかがでしょうか。

#### 委員

同国人のコミュニティみたいなものは、外国から来た人にとっては、すごくほっとできるところで、頼りがいのある存在になると思います。先ほどの、県のアンケートを見ても、困った時の相談相手としては、家族、親戚、友人とか、だいたい同国人がまず相談相手になるのかなって思うように思います。ただ、個人としては、隣の人にもっと相談してよ、というふうに感じました。だからまだこの地域コミュニティが、住んでいる地域の中で近いものになっていないなと思います。同国人のサークルで、アットホームな気持ちで、いろんな問題処理されるというのは、本人にとって非常にいいことだというふうに思うし、我々としてもそこで物事が解決できるなら、手っ取り早いというふうに思うけれども、地域社会のありようからすると、そういう方向で考えていしまってもいいのかなと思います。たとえば、外国人が多いという地域で、同国人同士が集まっているいろんなことをやるのもいいのだけど、地域社会から見ると、特別な何か世界が作られているなと思ってしまいます。別に悪いことではないんですけども、地域社会との関係をうまく運んでいくと考えたときに、その世界だけしかないとなれば若干問題あるのかなというふうに感じています。

#### 議長

ご指摘のとおり、逆に外国出身の方の数が増えてくると、どの世界を見ても、分かれてそれぞれのコミュニティを作っていくというようなパターンになることは非常に多いです。それは逆に増えていった時の問題って感じなのかなというふうに思います。福島市ぐらい少ないとそういうふうにはならないと思います。それから、どういう方の多文化共生、



多文化主義のコミュニティを目指すかっていうのは、福島市としてこう示すというのもいかなと思います。同国人がバラバラに、それぞれのところに住むようなことにならないようなタイプのまちづくりを目指す、っていうようなことでしょうか。

他にご意見ご質問などございますか。

#### 委員

今まで共生という事で、やってあげるだけではなくて、お互いにできる場所でつながっていくことが大事だよっていうことは、実は小さいころの生活をどう過ごしてきたのかがすごく大事なかなと思います。いかに支援していくかっていうところにばかり目がいきがちですが、その子どもの良さを生かして、それぞれの現場での特色に合わせた課程が組めるってというような工夫も、このアクション 3 の誰でも自分の考えを正しく伝える、ケース 2 の子どもの頃から世界に触れられる活動というところに現れていると思います。世界に触れるっていうと必ずどこからか外国人をよんできたり、外国生活の経験ある人をよんできたりして、そこでお話を聞いて、体験的な活動ということが考えがちなんだけれども。せっかく今自分のまわりにいるお友だちと共についてというような視点でも考えていかななくてはいけないと感じるところです。どうしてもまだまだ、支援を必要としているという見方が多かったですが、支援は確かにしていくけれども、でもその良さっていうものを活かしながらっていうことをこれから各現場などでも考えていかななくてはいけないところだなと思いました。全体的にはアクションガイド、分かりやすくなっているなどと思って見せていただきました。

#### 議長

ありがとうございます。他にご意見ご質問などございますか。

これは進め方としては、次回までに完成版を作るという形になるんですか。

#### 事務局

年度内は難しいと感じております。庁内でももう少し議論が必要かなと感じてますので、年度はまたいでしまうかもしれませんが、ただ次回までに完成形にしたいというふうに考えてます。

#### 議長

では、また細かい所でご意見などありましたら、今日のペーパーなり個別にメールなどで事務局の方にご連絡を差し上げるという形をお願いします。

ひとまず、この「多文化共生のまち福島推進指針（案）について」の議題はここで閉じたいと思います。

（４）「生活ガイドブックの見直し（案）について」ということで、事務局からよろしくをお願いします。

事務局

資料説明 … 「生活ガイドブックの見直し（案）について」

議長

ありがとうございました。これもちょっと分量が多いもので、今日全て見ていただくというのは難しかもしれませんので、また見ていただいて、個別にメールやご意見等いただければと思いますが、特に今何か、ご意見ご質問がありましたらお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

この対応言語の表記ですけど、前回、国旗でやったらどうですかというお話しが出たと思うんですが。いかがですか。

委員

英語を、国旗では表せないのでは。

委員

よくこう、観光のホームページとかみると、国旗が書いてあったりします。いろんな海外の博物館であったりとか、国旗をクリックして、言語が変わるようになっているようです。

委員

本当に情報を探している時はそんなに考えないんですけど、案内が国旗で表示されている時は、ほとんどアメリカ英語が多いです。ただ、細かく話をすると、例えばアメリカ

とイギリスではスペルとか表現が違う点があります。

#### 委員

職場で使っている翻訳機は、アメリカの英語と、イギリスの英語と、オーストラリアの英語と、インド系の英語の4つが入っています。英語ではあっても、国ごとに少し表現が異なるため、可能であれば、各国旗で表してほしい。

#### 議長

国旗を出すという事は政治的な問題も関係があるので、難しいかなという感じはしてません。

#### 委員

10 ページの町内会の部分ですが、希望を申しあげると、町内会は独立の項目にしていたきたいなっているように思います。持ち家、アパート、公営住宅、すべてに町内会というのに関わってきます。それから、「毎月会費を払います」と表記されていますが、毎月会費を取ってる所はおそらくないだろうと思います。月会費ではありますけど、集金方法はそれぞれかと思えます。また、町内会を説明する場合、いろんな町内会の活動に参加することによって、近隣の人たちと良い関係を作ることができますという表現をいれてもらえるといいのかなと思います。隣近所とうまくいくかどうかという事は、日本人でも、非常に大きいです。快適な暮らしになるかどうかという点でもありますし、外国人にとってみれば、すぐ隣の人に、何かあればすぐに相談できたり、会話しながら日本語の勉強になることもあると思います。そういう点では、先ほどの、アンケートを見ると、まだ町内会のウェイトは小さい、あまり頼りにされていない、というふうに思いました。町内会についての紹介をもう少し増やして欲しいなというふうに思います。

#### 委員

14 ページの「病院に行く」のところ。言葉、英語が通じる医療機関を紹介するために、1 ページでも示されている「ふくしま医療情報ネット」について、このページにも、入れてもらおうといいと思いました。

#### 議長

ありがとうございます。本日お集りの委員の方々それぞれ、専門分野の領域がございましたので、今のような何かリンクの情報などございましたら是非教えてください。こうい

うところを見れば、今のような情報にアクセスできるっていうのがあれば是非よろしくお願いたします。その他いかがでしょうか。

委員

12 ページ「銀行」についてになります。住んでいる方だけではなく、外国の方たちが観光など短期で来た場合、福島市ではどこで現金をおろすことができるのかわからないと思います。、色々な国のキャッシュカードが使えるコンビニエンスストアがありますなどと、書いておいていただけると、聞かれた人も答えやすいし、受け入れている人たちも、ここではカードが使えると案内できます。

委員

外国の方から、どこで現金をおろせるのと聞かれるので、よくコンビニエンスストアのATM を紹介します。両替する場合は、仙台駅が 1 番近い所。街中の銀行でもできるけど、言葉が通じなかったり、銀行は 3 時までと時間が決まっています。

議長

ありがとうございます。それでいくと 7 番というのは、かなりカテゴリーとしては大きいと思います。7 の 1 とか 2 とか 3 とかというのは、それぞれ格上げしてもいいのかなという感じます。「くらす」というのはかなり大きなカテゴリーなので、いろんなものが入っていますね。

委員

4 ページにですね、「労働についての相談」というところで書いていただいたんですが。ここでは労働条件に関する相談窓口になるため、仕事を探している方の場合はハローワークになるため、別に載せていただけたらと思います。

議長

仕事を探すことの紹介は 13 ページ「働く」にありますね。ですから、どう整理するかということなんだと思います。

## 委員

その労働相談の事について、相談できるところを探している方が多いようです。現在の労働環境などで困っている方が相談窓口がどこなのか分かりやすいように、仕事を探している方の窓口とは別に表記しているのだと思いました。

## 議長

そういった緊急のようなものと、仕事を探すということの連絡先は分かれている、という構成なんでしょうね。ガイドブックの最初のページでは本当に緊急性のあるような法律や医療とか、もしかしたら DV とかそういうものも入るのかもしれませんが。そういった内容の相談がくるように、相談窓口としてカテゴライズされている。

では、細かい所はまた個別に、紙なりメールなりで事務局までお伝えするというので、この議題、終了させていただきます。ありがとうございました。

では3番、その他です。何かその他、事務局でございますか。委員の皆さま方から何か、その他、ございますか。

では事務局の方から、次回のアナウンスお願いいたします。

## 事務局

次回ですが、年度が変わってしまうという事がございまして、別途調整させて頂きたいと思っております。皆さんの中にも、もしかして継続できない方もいらっしゃるかもしれません。もし、参加できない時も資料はお送りしたいと思っておりますので、是非、最後までお付き合いいただければと思っております。異動等の状況ございましたら、ご連絡頂けると大変ありがたく思っております。日程は別に調整させていただきますので、どうぞよろしく願います。意見書、3月11日と記載しておりますが、まだ次の会議まで時間ありますので、もうちょっと時間過ぎても大丈夫ですので、何かお気づきの点がありましたらよろしく願います。以上になります。

## 議長

ありがとうございました。

以上で全ての議題を終了いたします。以上で議長の任を解かせていただきます。本日も皆様のご協力のおかげで、実りのある議論ができました。ありがとうございました。